



川根本町の重要な財産は自分たちが守る！

文化財防火デーに伴い、智満寺で火災対応訓練

文化財防火デーに伴う火災防備訓練が1月20日、町指定文化財の「智満寺」において行われ、島田消防本部、島田消防署川根北分遣所消防隊、川根本町消防団（本部、6分団）、上長尾自主防災会、智満寺住職、町教育委員会が参加しました。

この文化財防火デーは、今から59年前の昭和24年1月26日に発生した奈良県にある法隆寺（現存する世界最古の木造建築物）金堂の火災を教訓とした、文化財を守る運動の一環として行われており、文化財保護の意識高揚、保護体制の訓練を目的としています。

当日は、智満寺山門付近から出火したと想定し、川根北分遣所、川根本町消防団第6分団による区内防火水槽を利用してポンプ車及び中継消火活動が実施されました。また、上長尾自主防災会による初期消火訓練や非常持ち出し品の搬出訓練も併せて行われました。

訓練では、参加したそれぞれの各隊において、情報の伝達やコースの中継を素早く行うことが重要であると認識でき、また、町の財産である「文化財」を守る意識を持つことができた有意義な訓練となりました。



山門に向けて一斉放水！川根本町の重要な財産を守ります

Topics & News

広報かわねほんちょうは町民の皆さんとともに歩むこの町のアルバム。 静岡県広報コンクールにおいて「広報かわねほんちょう」が2年連続最優秀賞を受賞。

広報かわねほんちょうが最優秀賞を受賞しました！静岡県広報協会が主催する平成19年静岡県広報コンクールの審査会が1月10日、静岡県庁で行われ、「広報かわねほんちょう」が広報紙（町の部）において、2年連続「最優秀賞」を受賞しました。

このコンクールは、平成19年中に発行された県内市町・団体の広報紙などを対象に、企画・アイデア・レイアウト・文章など総合的に評価するもので、各市町から出品された作品93点の中から30点の入賞作品が選ばれました。

今回最優秀賞を受賞した本町の広報紙は、市部門の最優秀賞「広報ぬまつ」とともに、今年度の全国広報コンクール（日本広報協会主催）へ県代表として出品されます。

広報紙編集にあたり、写真撮影や取材にご協力いただいた皆さん、原稿や投稿・アイデアをお寄せくださる皆

さん、本当にありがとうございました。また、受賞を聞いた皆さんから、たくさんの言葉をかけていただきました。広報紙づくりの大きな励みとなっています。

今後も、個性あふれる川根本町らしい広報紙づくりを目指し、また、微力ながら、川根本町の活性化の一助となれるよう努力してまいります。

表彰式は6月ごろ、県広報協会総会で行われる予定です。



最優秀賞を受賞した「平成19年11月号」。審査員から「すべて良し。町民と手を携えて町を良くしたい姿勢が見える。特集にも力が入っていて読みごたえがある」と講評をいただきました。県内各部門の審査結果・講評などは（社）静岡県広報協会HPでもご覧になれます。

本庁企画環境課情報政策係 広報かわねほんちょう担当 電話 (56) 2221

3月間奉仕 毎日午後4時よりタイムサービス 生鮮品1割引！

より良い品を より安く オザワマート

営業時間・午前9時～午後7時（日曜日・午前9時～午後6時）
川根本町上長尾 TEL 56-1108 FAX 56-1109

11000ポイント引換券

1万円とこの券で11000ポイント販売いたします。千円分お得です。最高2万円まで販売します。この券を切り取ってお持ちください。

有効期間：平成20年3月1日～31日

キリトリせん

キリトリせん



やさしい語りでふるさとの温もりを伝えます

中川根商工会「語り部まつり・民話カルタ大会」

中川根商工会主催のなかかわね昔ばなし語り部まつりが1月20日、山村開発センターにおいて開催され、来場者約200人が集いました。

ステージ上に設営された舞台では、商工会語り部の会「話楽座」のメンバー6人と講師が、ふるさとのぬくもりを伝えたいと大井川北部地域に伝わる民話を中心に、心を込めてやさしく語りました。

この日語られた話は、第1部に蘭田光枝さん「野守太夫」、中原すま子さん「幸せを呼んだ鏡石」、伊藤民子さん「かくれ里の不思議」、澤井初美さん「ときどんと森ん段」です。

1部と2部の間には、徳山古典芸能保存会による徳山神楽の舞いが披露され、会場は大いに盛り上がりしました。

第2部では、奥野恵美子さん「わん淵」、西村かつ子さん「大頭龍」、最後に、講師の岡尾智津子さんの語り「似た者同士（落合恵子作）」で幕を閉じました。

当日は、大根そば、よもぎもち、よもぎ饅頭、地元の素材を利用したドライフラワーなどの特産品も販売され、来場者に喜ばれました。休憩時間にふるまわれた、おしるこや甘酒も冷えた体が温まると好評でした。来場者は、町内をはじめとして、静岡市、焼津市、袋井市、浜松市など広範囲から集まりました。

この語り部まつりは、芸能・民話を語り継ぐことで「日本のふるさとの原風景の残る里」として、地域を代表する文化イベントに育て上げていこうという意気込みで、今回で9回目を数えます。



来場者に向けてやさしく語りかけました

優雅な舞いの数々が来場者を魅了 梅津神楽

接叡峡温泉会館で伝統の舞「梅津神楽」が奉納されました



4年ぶりに奉納された「ヘンバイ」

梅津神楽は、こだま石神社、若宮神社に500年前から伝わるといわれる神事で、由来は室町時代の1467（応仁元）年、足利将軍家の相継争いから生じた応仁の乱で、京都梅津地区（現右京区）の里に住んでいた筑地氏が一族を率いて都落ちし、信州を経て梅地地区に村を開き、この際、筑地氏は京都の梅津にちなんで梅津（のちに梅地）と名付け、氏神を勧請（神仏の来臨や神託を祈り願うこと）して自ら神主となり、社前で奉納したのが梅津神楽の始まりと伝えられています。1972（昭和47）年に静岡県無形民俗文化財の指定を受け、毎年1月の第3週土曜日に梅津神楽保存会によって奉納されます。

1月19日、接叡峡温泉会館において「梅津神楽」が奉納されました。夕方5時から行われた舞の奉納では、「幣の舞」「三宝の舞」「梅津流太刀の舞」など多くの舞が奉納され、会場に詰めかけた町内外からの観客たちは、舞の数々を堪能し、大きな拍手を送りました。

そして今年は、特別な祈願がある年にしか行われぬ「ヘンバイ」の儀式が4年ぶりに行われました。「ヘンバイ」は、平安時代に活躍した陰陽博士 安部清明が編み出したとされる魔除けの呪符を取り入れたものといわれており、天井飾りをおろし何も飾りが無いところで行われるため、すべての神楽が終わった午前1時30分頃からは行われました。陰陽道では事象の起るおそれのある場合に行われていたようですが、接叡地区では、新築の地固めや、安産祈願などの特別な祈願がある際に行われてきました。近年では、安産祈願や、接叡峡温泉のボーリング調査、長島ダム工事の時にあっており、今回のヘンバイは、舞い手ご家族の安産祈願で行われました。儀式は、晒木綿一反を星型の五角形に敷き、斎主が白の斎服を着用し、烏兜、猿田彦の面をつけ、刀を両手で携え踏み回るので、布を踏みはずすと願いがかなわず凶事が起こるといわれており、館内には緊張した空気が流れました。この「ヘンバイ」の儀式は無事終了し、見届けた観客からは大きな拍手があがりました。

土木一式工事・生コンクリート製造販売

Co、As穀受入れ（有料）、中間処理 再生クラッシュラン販売

ISO9001認証取得

株式会社 柳澤組

本社：川根本町東藤川722-2
生コン工場：川根本町千頭606

電話：0547-59-2052
電話：0547-59-3220